

2022 年度地元産業界等と連携した実践的 PBL

プロジェクト名	地域活性化プロジェクト
大学名	聖泉大学
代表者（学生）	谷口海月
科目名（シラバス あり）	人間学部 プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 D
担当教職員	人間学部 准教授 富川 拓
連携団体	米原市役所
SDGs 目標番号	5、11

1. 取組み体制

聖泉大学人間学部 学生 16 名（富川ゼミの学生）、教員 1 名（富川）、米原市役所 若手職員 19 名

2. 背景・目的

【背景】地方創生、人口減少対策に向けた取り組みは、全国各地の自治体で多様な展開を見せている。各自治体の課題はその地域特性によって異なるが、共通の課題の一つとして、各種取り組みへの「若者の参画促進」がある。地方創生の実現に向けては、次世代を担う当該地域の若者が、地域の各種課題（ジェンダー平等の実現等）を自分自身の問題として捉え、当事者の一人として取り組みに参画することが非常に重要となるが、多くの自治体では未だ不十分な状況にある。

【目的】本プロジェクトは、米原市における地方創生の実現を目指して、次世代を担う若者たち（大学生と市役所の若手職員）がチームを組み、グループワークを通して米原市の現状に即した政策を市の総合計画や市民意識調査の結果をもとに具体的に検討し、市に提言することを目的とした。

3. 活動内容：大学生と市役所の若手職員がチームを組み、それぞれ「福祉」「教育・人権」「環境・防災」「産業経済」「都市基盤」「都市経営」をテーマとし、政策を検討した。

①講義等

講師 聖泉大学准教授 富川拓

・米原市総合計画について

- ・市民意識調査について

- ・その他

②ワークショップ 1

- ・班別でテーマについて意見交換

- ・今後実施予定の市民意識調査の質問項目についても検討

③発表

- ・班ごとに意見交換の結果を発表、質疑応答

④ワークショップ 2

- ・他の班の発表、質疑応答の結果を受けて、再度班別に意見交換

⑤ 講評、まとめ

4. 目的の達成状況、成果

当事者である若者たち（大学生と市役所の若手職員）が、総合計画や市民意識調査の結果をもとに地域の現状に即した政策（ジェンダー平等に係る政策等）を検討し、米原市役所に提案することができた。

5. 課題、懸案事項

①提案した政策の実現に向けて、来年度以降の具体的な活動を検討する必要がある。

②提案した政策の実現に向けては、聖泉大学と市役所だけでなく、市民や企業、学校などとの協働体制の構築が必要となる。